

渡邊大使のグランマ県・オルギン県訪問（11月14日～17日）

在キューバ大使館

キューバ始まりの街・グランマ県バジャモ市訪問

15日、渡邊大使は、スペイン独立戦争の英雄・カルロス・マヌエル・セスペデスの生まれた街であり、キューバ国歌が生まれたグランマ県バジャモ市を訪れました。

右訪問においては、特別支援学校「エルネスト・ゲバラ」校を訪問し、平成26年度草の根人間の安全保障無償資金協力案件「グランマ県2市における特別支援学校・職業訓練校機材整備計画」の完成式に出席しました。完成式では、障害を持った子どもたちがダンスを披露し、グランマ県の教育局長からは、「キューバでは障害者を社会的包摂が進めていくかという点が非常に重要。日本政府及びハンディキャップが進めるプロジェクトに感謝する」と述べ、渡邊大使も、「本プロジェクトは、人間が尊厳を持って積極的に生きることができるところを目的とする点で日本政府の協力の根幹である人間の安全保障に一致する。またキューバが進める本プロジェクト今後日本を含めた国際社会にとってのモデルケースとなりうる。」と応じました。



式典の様子



子どもたちの職業訓練クラスの視察

その後、グランマ大学において「日本文化とその精神性」と題し、同大学の生徒及び教授の出席のもと講演を行いました。安倍総理の訪問や、ハリケーンマシューに対する支援など日本の存在感が増している現状や人物交流の重要性へのコメントがあった他、野球が人気なお国柄、野球に対する日本とのつながりに対するコメントがありました。

また、同県にいる36名の日系人のうち3名（フジシロ氏、トヤマ一家）と会談し、グランマ県の日系人の現状や日本文化の普及に対する意見交換がなされました。



グランマ県の日系人との懇談

フィデル・カストロ前議長生誕の地 オルギン県訪問

16日は、オルギン県の北に車で40分ほどに位置するヒバラ市を訪問し、平成28年度草の根人間の安全保障無償資金協力「オルギン県ヒバラ市カレトネス地区における海水淡水化装置整備計画」の署名式を実施しました。式には、ヒバラ市人民権力市議会副議長、グランマ市人民権力県議会書記が参加し、渡邊大使とオルギン県上下水道公社副社長との間で署名が行われました。渡邊大使は、「オルギン県は、ハリケーンや干ばつなどの影響また海水の地下水への侵入で水に対する需要が高い。日本はJICAを通して、キューバにおいて同分野への援助を続けてきた。水は生活の必需品と捉え今後もこの分野でのプロジェクトを続けていく」旨述べ、副社長よりは、「日本の支援は、オルギン県の生活の向上に必ず役立つと信じている」と応えました。その後カレトネス地区に移動し、現状を視察した他、住民の水供給の現状等について意見交換を行いました。



署名式の様子



講演の様子

その後オルギン大学に移動し、「日本人の文化とその精神性」についての講演を行い、教授や生徒合わせて110人が参加しました。会場では活発な意見交換が行われ、日本と中国のビジネスにおける精神性の相違、日本の教育制度について質疑応答がなされました。

またオルギン県では、日系2世の熊本県出身の両親を持つイワサキ氏一家と日系人の現状について意見交換がなされました。イワサキ氏の父親は、1910年カナダからメキシコそしてキューバへと渡った移民で、イワサキ氏は東部地区の日系人の連絡調整を行っています。折り紙教室を子供達や障害者達に開いてキューバで賞をもらった思い出などを語っていただきました。



オルギン県日系人との懇談